

避難所開設訓練に おける確認事項集

平成27年1月10日

西葛西小学校避難所運営協議会

説明会資料

○使用する資料

- ・避難所開設メモ、校内レイアウト図
- ・災害時の連絡方法一覧表（地区別）

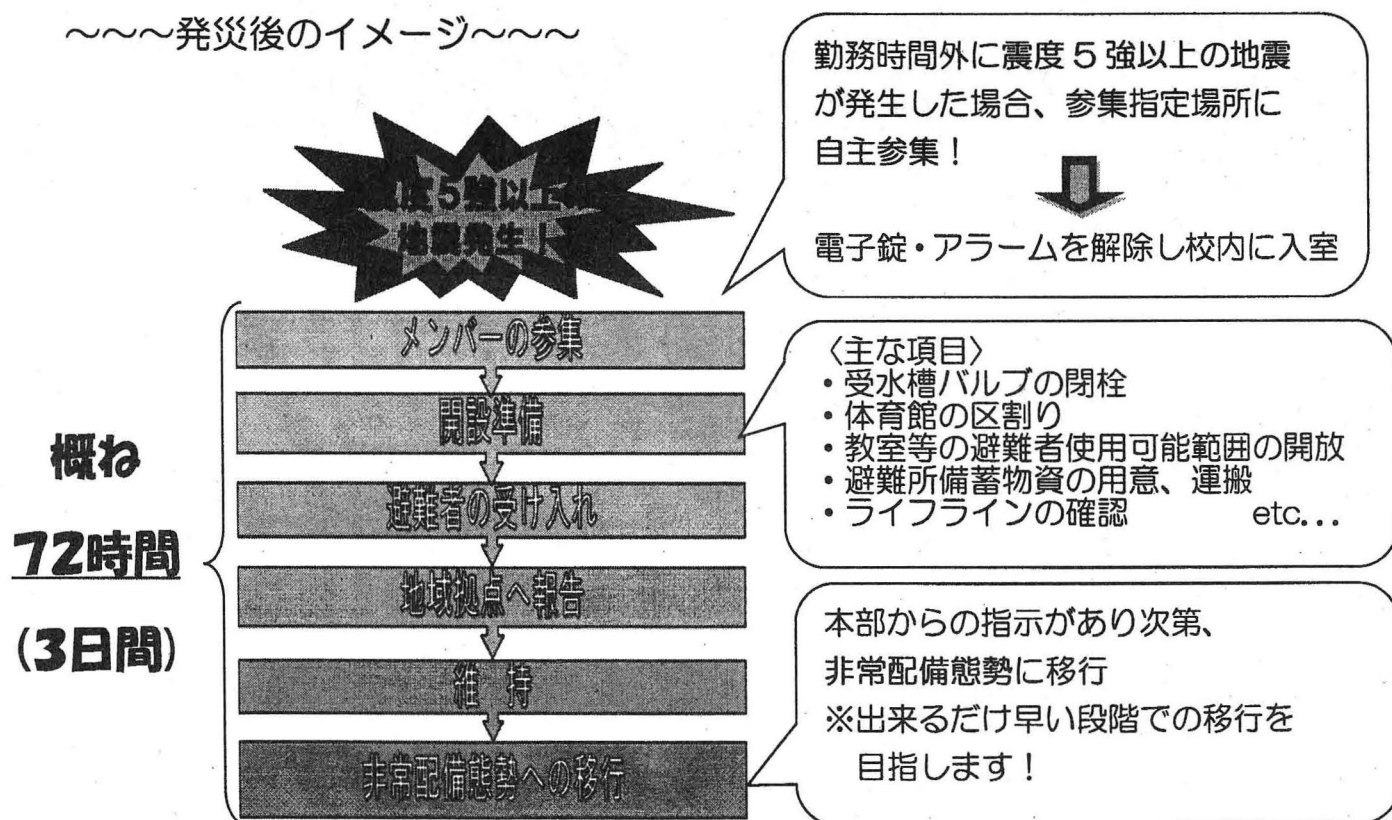
※校内レイアウト図…避難所開設研修時に開設メンバーが作成。学校を避難所として、各教室をどのような用途で使用するのかを3色に色分けしたもの。

赤…避難者立ち入り禁止区域（危険物がある・学校運営上必要な教室等）

青…共有スペース（救護所・ボランティアルーム等）

緑…避難者生活スペース（主に体育館・クラスルーム等）

〜〜〜発災後のイメージ〜〜〜



○確認事項1（優先確認項目）

避難所開設メモに記載されている事項は基本的には全て確認すること

1. 参集場所の確認及び入室方法の確認 ※参集場所は避難所開設メモ参照

以前にメンバーで決めた参集場所が開設メモに記載されています。まず、参集場所が集合地点になりますので、その場所の確認をしてください。

～基本の流れ～

集合 → 電子錠の解錠 → 入室 → アラームの解除

【確認事項】

・1人で立ち入らない

震度5強の地震が発生し、参集場所である小中学校へ到着したとき、最低3人参集するまでは、校舎内へ立ち入らないでください。

3人集まりましたら、2人で入室し、1人は外で待機（見張り役）します。

※1人で校舎に入った場合、万が一何かあった時に誰にも気づかれないためです。

※必ずしもその3名が区職員である必要はなく、その場の状況に応じて避難してきた地域の住民に協力（見張り役）を頼んでください。

『施設の安全確認について』

大規模な地震等が発生した場合、余震などで外壁や窓などが落下する可能性があるため、避難してきた区民等が避難所へ入室する前に施設を点検する必要があります。各避難所には施設安全点検者（※1）が配置されていますが、施設安全点検者が来る前に避難者が押し寄せて早急に開設しなければならない等、応急的な建物の危険度判定を現場にいる者が行わなければならない場合があります。

この場合、現場にいる開設職員等は、目視による仮点検（※2）を行い、施設の安全を確認し、避難者を施設内へ入室させます。その後、施設安全点検者が到着し、再度、点検を行い（本確認）、施設に危険な状況や落下物等による危険区域を確認した場合には、直ちに立ち入り禁止措置を講じます。

状況によっては、避難所を閉鎖し、他の近隣の避難所や避難所補完施設へ移ることを検討します。

※1 施設安全点検者…都市開発部職員、または協力団体関係者で応急危険度判定士の有資格者

※2 開設職員が仮点検を行う際のマニュアルは現在、都市開発部で作成中です。

・電子錠の解錠方法等について

小中学校の校内に入るための電子錠については、学校から教えていただいている解錠方法と暗証番号、入室してからのアラームの解除方法を使用し入室します。

(暗証番号については取扱注意！！)

※警備会社によっては、電子錠と本体システムが直結していて電気式のため停電時には使用が出来ない学校があります。

2. マスターキー等鍵の保管場所の確認

体育館や教室の利用、受水槽の給水時等に必要のため、鍵の場所を確認しておくことは重要です。開設メモの記載をもとに、学校の方とともに確認します。

※学校によって、マスターキーがある学校、個別の鍵になっているところがあります。

個別の鍵で管理している学校は、ばらばらになっているようだと、発災直後の混乱の中で、どれが何の鍵であるか判断が出来ずに対応が遅れる恐れがあります。

開設職員や、教職員が分かりやすい状態にさせていただくようにお願いして下さい。

3. 防災備蓄品保管場所・保管物品の確認

各学校に配備している備蓄品の保管場所・物品の確認をします。

※避難所開設メモと違っていたら随時更新してください。

避難所には基本的に必要最小限の物資しか備蓄されていません。

開設職員も、最低3日分（できれば一週間分）の備蓄をするようにして下さい。



～小中学校の備蓄物資～

備蓄品名	数	備蓄品名	数
マンホール対応型トイレ	1 ～ 3	発電機 (ガソリン缶 4)	1 台
簡易トイレ (6 セット入り)	1 or 2 箱	すずらん灯・電球	1 セット
クラッカー・サバイバルフード ※1	3,000 食	カセットコンロ	1 台
毛布	400 枚	ガスボンベ	9 本
レスキューシート	600 枚	レスキューセット BOX (工具)	1 セット
ブルーシート	50 枚	粉ミルク・ミネラルウォーター・哺乳瓶 ※2	
カーペット	30 枚	災害時用消耗品タグ BOX ※3	1 箱

※1 サバイバルフードは廃止し、クラッカーのみの備蓄に順次切替中

※2 中学校のみ配備

※3 平成 26 年 3 月に配備

(中身は、マニュアル・各種様式、開設メモ・レイアウト図、腕章、腕章、ポスター・コピー用紙、トイレットペーパー、マスク、軍手、雨合羽)



4. 受水槽の閉栓

江戸川区の避難所では、ペットボトルでの水の備蓄はしていません。
受水槽に蓄えられている水が、災害時の貴重な水となります。
受水槽のきれいな水を確保するために、

- ・ 給水管（東京都水道局から）（入口）※1 と、
- ・ 高架水槽への揚水管（出口）※2 の
「常時開」と書かれているタグのあるバルブを閉めます。

合言葉は、『**常時開は、非常時閉**』です。

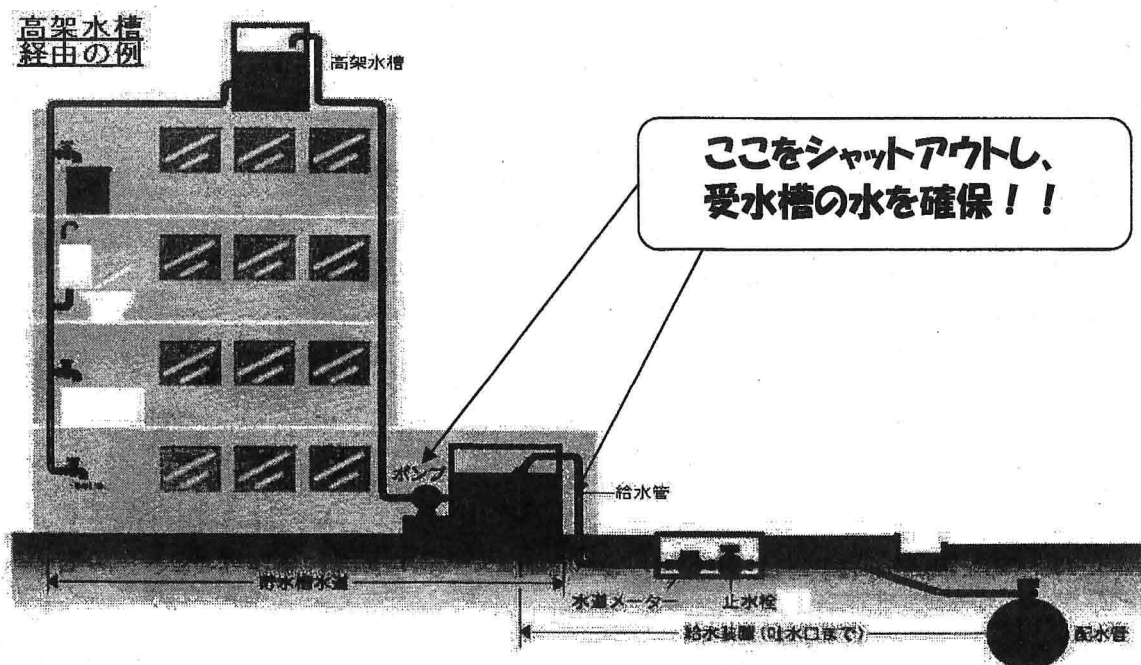
学校によっては、バルブを閉めるためにポンプ室に入らなければならないことがあるので、その場合は、ポンプ室のカギの保管場所を確認してください。

また、受水槽には蛇口が付いており、この蛇口から受水槽の水を取り出すので、蛇口ヘッドの保管場所の確認も合わせてしてください。

※1 水道管が破損していた場合に、汚れた水が入るのを防ぐため

※2 電気が通っていた場合は、閉めておかないと高架水槽に水が送られてしまうため

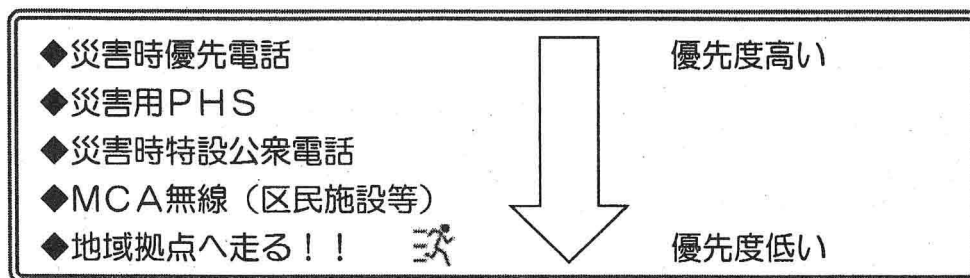
～イメージ図～



5. 通信手段の確認

避難所 ⇒ 地域拠点（各事務所） への連絡手段です。

災害時は、多くの方が電話を集中的に利用するため、非常にかかりづらくなります。激甚災害で電話線が遮断されるようなことがあると話違ってきますが、回線の遮断や、無線局の倒壊等が無い条件では、下記が通信手段となります。



～各通信手段について～

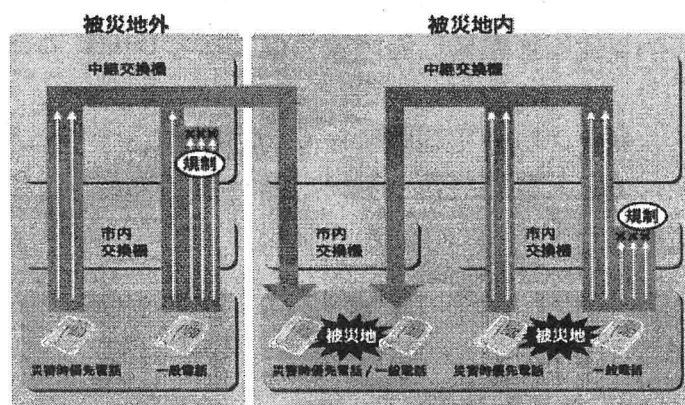
◆災害時優先電話

校長室若しくは職員室（ほとんどが副校長の机）に1台あります。

受話器に黄色のシールが貼ってあり、2番で発信を行うと一般回線のような通信制限を受けることなく発信が出来る電話です。

※右図のとおり一般の電話も完全に遮断

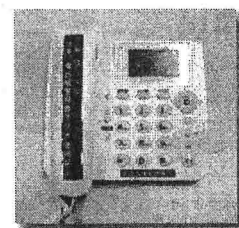
されるわけではないので、かかることがあります。



～イメージ図～

◆災害用PHS

普通の電話の形ですが、PHSです。乾電池が入っているので、基地局が無事であれば、停電時でも使用が可能です。繋がっている線は電源コードなので、もちろん抜いても大丈夫です。必要に応じて運営本部等に持ち出してください。



◆災害時特設公衆電話（5台）

主に避難者に利用してもらうためのものですが、上記2つでは足りない場合の補完として考えます。（詳細は後述）

◆MCA無線 & 地域拠点へ走る

小中学校には配備されていないので、上記で連絡が取れない場合は、最寄りの区民施設へ行ってMCA無線を借りるか、各地域拠点が近い場合は、そこまで走ることになります。

Wi-Fiアクセスポイントについて

各学校には、本庁舎と同様にauとソフトバンクのWi-Fiスポットが無償で設置されています。場所は職員室と体育館に原則設置されています。災害時には各自のスマートフォン等で設定すれば、キャリアに関係なく使用することができます。（※ドコモの設置はありません。）

いざというときは、職員室にあるソフトバンクのWi-Fiを避難所運営本部に持っていきます。



6. 災害時特設公衆電話の保管場所・設置場所確認

一般の回線が繋がりにくくなっている中で避難している方の連絡ツールとして（場合によっては、避難所から地域拠点への連絡ツールの一つとして）、各学校に 5 台ずつ配置されています。

設置の仕方は、学校の昇降口天井付近にある端子盤から電話機にジャックを繋ぎます。（電話と一緒に開設手順書が入っています。）

※ 端子盤は事務室内にある場合やそれ以外の場所にあることもあります。

※ 端子盤が高い所にあるので、脚立の場所、設置する際の机の場所も要確認です。



※ 通常時はご利用いただけません。

《災害時特設公衆電話の特徴》

- ・災害時にのみ使用ができる発信のための公衆電話（形状は家庭用固定電話）
- ・停電時も使用可能で、一般の電話より優先されてつながりやすい。
- ・5 台の電話それぞれに電話番号があります。

《注意点》

- ・発信が優先となる電話であり、それぞれに電話番号があるため、リダイヤル等で相手からの電話の着信・応答をしてしまうと使える意味がなくなります。
⇒かかってきた場合は、すぐに切る等の対処が必要です。
- ・5 台しかないので順番待ちの混雑が出来る恐れがあります。その際は一人何分まで等、各避難所で運用ルールを設けます。

～災害用伝言ダイヤル（171）の活用について～

地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。ご家族等との安否確認・所在確認のツールとして紹介して下さい。利用方法等は、特設公衆電話のタグボックスに入っています。

○体験利用可能日

毎月 1 日・15 日、正月三が日、防災週間（8 月 30 日 9:00～9 月 5 日 17:00）
防災とボランティア週間（1 月 15 日 9:00～1 月 21 日 17:00）

《注意点》

- ・被災地の方の電話番号（安否確認先）として登録できる電話番号は一般電話番号のみとなり、携帯電話の電話番号は登録できません。
- ・災害の発生状況により伝言登録ができる地域を制限している場合があります。伝言登録可能地域が制限されている場合は携帯電話からの伝言登録はできず、メッセージ再生のみとなります。

○確認事項 2

・各教室の利用方法の確認

各教室の利用方法を学校の方とともに、校内レイアウト図を基に確認します。

教室の配置が変わっていたり、学校側が利用方法を想定している場合がありますので、学校側との意識の統一を図ります。

《注意点》

- ・避難者の方が一度入室すると、その後移動していただくのは大変です。使用しない部屋には施錠する、避難者立ち入り禁止部屋には張り紙をするなどの対処をしましょう。

・防災備蓄品の操作・使用方法の確認

備蓄の発電機の操作方法や、マンホールトイレ設置方法・設置個所の確認。

マンホールトイレの設置可能マンホールは、学校周辺の道路上（改築後の一部学校を除く）にあります。位置図はマンホールトイレセットの中に入っています。

○開設訓練後、メンバーで実施する事項

・開設メモ、校内レイアウト図の更新

更新が完了したら、メンバー間・学校で情報共有。

カラーコピーの無い職場や、メールが開けない方等へは交換便送付。

・連絡網の作成・更新

・役割の確認・変更等

リーダー・サブリーダーの変更の必要がある場合等は、メンバー間の協議の上決定。

○今後の訓練実施項目（案）

- ・ 校内レイアウト図の修正と建物外レイアウト（校庭等）の検討
- ・ 建物（応急）危険度判定講習（目視による仮点検）

◎体育館・教室の区割り体験

- ・ 受水槽での給水訓練
- ・ 手作り担架の作成等、職員だけでできる応急救命講習

◎開設準備の一連の作業を行うシミュレーション訓練

- ・ 避難所開設・運営マニュアル勉強会
- ・ HUG 訓練での課題等の学校での検証

○地域との共同・合同訓練

- ・ 地域への備蓄物資の紹介
- ・ 開設要員と合同の避難所開設訓練
- ・ 学校・町会での HUG 訓練の実施

○その他の取り組み

- ・ 避難所補完施設との顔合わせ・施設利用方法の確認等
- ・ 近接、近隣避難所同士との連携訓練
- ・ 避難所運営協議会への参加